

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年10月30日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」 地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」～退院支援について～
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年10月19日(水)木場迫公民館 9:30～11:00(参加者15名)

- ・いつまでもこの木場迫の家で暮らして行きたいです。「そりゃ、わが家が、いっぱいじゃ。」
- ・じっくりって言っても、一か月くらい寝込んで死んでいければ良いけど ..
- 「そんなにうまくはいかないよねえ..」 やっぱピンピンころりかねえ (笑い)
- ・介護の認定に段階がありますが、あれはどんなことを基準に決められるのですか...知り合いの人が審査の時に自分では何でもできるって言って介護が軽く出てしまって家族の人がこまったと言っていました。始めて聞いたのもっと深く知りたいです。家族を自宅で見守りたいと思っています。

(長年この地域に住んでいて、ほとんどの皆さんが顔なじみで良好な関係性が自然に構築されているといった印象でした。出来るだけ自宅で住み続けて行きたいと深く肯かれていました。介護の話など初めて聞くという方もあり、在宅医療・介護について知っていただけ良かったと思います。)

平成29年10月25日(水)川南交流センター(松原地区) 9:30～11:30(参加者18名)

- ・日本人の死亡率は..の問いに速攻100%の解答があり、「みんな最後は亡くなるのよねえ」
- ・じっくり亡くなると言っても長さは色々ですよえ..。長さにもよります。
- ・7年前義母を看取り、在宅ケアを利用させていただき、改めて制度の仕組みが心強く感じました。
- ・一人暮らしなので今日の話は、自分に問いかけられている様な気持ちで聞きました。さんこうになってよかったです。
- ・在宅サービスを受ける為には介護の認定が必要ですか..
- ・サービスにかかる費用とかも、どの位かかるのか気になります。
- ・認知症の事はやっぱり心配です。
- ・いざという時に本人が連絡できなかつたりしたときに、ちゃんと支援してもらえるか心配です。

(皆さんが一つ一つの話にしっかり肯いて頂き色々な心配など伝えて頂きました。今すぐ必要ではないが、これから先考えないといけない事だから、今日の話を参考にします。との意見もいただきました。)



木場迫公民館



川南交流センター